

【第1部】基礎（Q1～Q20）

置き字 Q1. 次の文の傍線部（置き字＝読まない字）の種類を、後のア～ウから選べ。

学ビ而テ  
時ニ  
習フ之ヲ。  
レ

ア 接続の字（而。前の語に「て・して／ども」を添える）

イ 前置詞（於・于・乎。場所・比較・受身などを示す）

ウ 文末・句調の字（矣・焉・兮）

置き字 Q2. 次の文の傍線部（置き字＝読まない字）の種類を、後のア～ウから選べ。

氷ハ寒シ  
於ニ水ヨリ。  
一

ア 接続の字（而。前の語に「て・して／ども」を添える）

イ 前置詞（於・于・乎。場所・比較・受身などを示す）

ウ 文末・句調の字（矣・焉・兮）

置き字 Q3. 次の文の傍線部（置き字＝読まない字）の種類を、後のア～ウから選べ。

必有師焉。

ア 接続の字（而。前の語に「て・して／ども」を添える）

イ 前置詞（於・于・乎。場所・比較・受身などを示す）

ウ 文末・句調の字（矣・焉・兮）

置き字 Q4. 次の文の傍線部（置き字＝読まない字）の種類を、後のア～ウから選べ。

三十而立。

ア 接続の字（而。前の語に「て・して／ども」を添える）

イ 前置詞（於・于・乎。場所・比較・受身などを示す）

ウ 文末・句調の字（矣・焉・兮）

置き字 Q5. 次の文の傍線部（置き字＝読まない字）の種類を、後のア～ウから選べ。

玉貴於石。

ア 接続の字（而。前の語に「て・して／ども」を添える）

イ 前置詞（於・于・乎。場所・比較・受身などを示す）

ウ 文末・句調の字（矣・焉・兮）

置き字 Q6. 次の文の傍線部（置き字＝読まない字）の種類を、後のア～ウから選べ。

力<sup>ハ</sup>拔<sup>キ</sup>山<sup>ヲ</sup>兮<sup>レ</sup>。

ア 接続の字（而。前の語に「て・して／ども」を添える）

イ 前置詞（於・于・乎。場所・比較・受身などを示す）

ウ 文末・句調の字（矣・焉・兮）

置き字 Q7. 次の文の傍線部（置き字＝読まない字）の種類を、後のア～ウから選べ。

和<sup>シ</sup>而<sup>テ</sup>不<sup>ズ</sup>同<sup>ゼ</sup>兮<sup>レ</sup>。

ア 接続の字（而。前の語に「て・して／ども」を添える）

イ 前置詞（於・于・乎。場所・比較・受身などを示す）

ウ 文末・句調の字（矣・焉・兮）

働き Q8. 傍線部「於」のはたらきとして最も適切なものを、後のア～ウから選べ。

君子立<sup>ハ</sup>於<sup>ツ</sup>朝<sup>ニ</sup>。

ア 場所・対象（～に・～で・～を）

イ 比較（～より）

ウ 受身（～に…られる）

働き Q9. 傍線部「於」のはたらきとして最も適切なものを、後のア～ウから選べ。

霜葉紅於花。

ハナリ  
ヨリモ

ア 場所・対象（～に・～で・～を）

イ 比較（～より）

ウ 受身（～に…られる）

働き Q10. 傍線部「於」のはたらきとして最も適切なものを、後のア～ウから選べ。

小人治於人。

タラル  
ニ

ア 場所・対象（～に・～で・～を）

イ 比較（～より）

ウ 受身（～に…られる）

置き字 Q11. 次の文の傍線部（置き字＝読まない字）の種類を、後のア～ウから選べ。

過而不改。

チテ  
ズ  
メ

ア 接続の字（而。前の語に「て・して／ども」を添える）

イ 前置詞（於・于・乎。場所・比較・受身などを示す）

ウ 文末・句調の字（矣・焉・兮）

置き字 Q12. 次の文の傍線部（置き字＝読まない字）の種類を、後のア～ウから選べ。

苛政猛於虎。  
ハナリ  
ヨリモ

ア 接続の字（而。前の語に「て・して／ども」を添える）

イ 前置詞（於・于・乎。場所・比較・受身などを示す）

ウ 文末・句調の字（矣・焉・兮）

置き字 Q13. 次の文の傍線部（置き字＝読まない字）の種類を、後のア～ウから選べ。

死而後已。  
シテ  
ノチム

ア 接続の字（而。前の語に「て・して／ども」を添える）

イ 前置詞（於・于・乎。場所・比較・受身などを示す）

ウ 文末・句調の字（矣・焉・兮）

働き Q14. 傍線部「於」のはたらきとして最も適切なものを、後のア～ウから選べ。

学於京。  
ニ  
ニ

ア 場所・対象（～に・～で・～を）

イ 比較（～より）

ウ 受身（～に…られる）

働き Q15. 傍線部「於」のはたらきとして最も適切なものを、後のア～ウから選べ。

ニ  
海深於河。  
一

ハ  
シ  
ヨ  
リ  
モ

ア 場所・対象（～に・～で・～を）

イ 比較（～より）

ウ 受身（～に…られる）

働き Q16. 傍線部「於」のはたらきとして最も適切なものを、後のア～ウから選べ。

ニ  
殺於賊。  
一

サ  
ル  
ニ

ア 場所・対象（～に・～で・～を）

イ 比較（～より）

ウ 受身（～に…られる）

置き字 Q17. 次の文の傍線部（置き字=読まない字）の種類を、後のア～ウから選べ。

レ  
是謂過矣。  
レ

レ  
フ  
チ  
ト

ア 接続の字（而。前の語に「て・して／ども」を添える）

イ 前置詞（於・于・乎。場所・比較・受身などを示す）

ウ 文末・句調の字（矣・焉・兮）

働き Q18. 傍線部「於」のはたらきとして最も適切なものを、後のア～ウから選べ。

ニ 用<sup>キラル</sup>於<sup>ニ</sup>君<sup>ニ</sup>。

ア 場所・対象（～に・～で・～を）

イ 比較（～より）

ウ 受身（～に…られる）

働き Q19. 傍線部「於」のはたらきとして最も適切なものを、後のア～ウから選べ。

ニ 問<sup>フ</sup>於<sup>ニ</sup>師<sup>ニ</sup>。

ア 場所・対象（～に・～で・～を）

イ 比較（～より）

ウ 受身（～に…られる）

読み方 Q20. 傍線部の置き字の扱いとして正しいものを、後のア～ウから選べ。

春暖<sup>ハシテ</sup>而<sup>ク</sup>花開。

ア 読まない（置き字。前の語に「て・して」を添える）

イ 「なんぢ（お前）」と読む

ウ 「しかれども」と必ず声に出して読む

働き Q21. 傍線部「於」のはたらきとして最も適切なものを、後のア～ウから選べ。

金堅於木。  
ハシヨリモ  
ニ  
一

ア 場所・対象（～に・～で・～を）

イ 比較（～より）

ウ 受身（～に…られる）

働き Q22. 傍線部「於」のはたらきとして最も適切なものを、後のア～ウから選べ。

君子役物、小人役於物。  
ハスヲ  
レ  
ニ  
一  
セラル

ア 場所・対象（～に・～で・～を）

イ 比較（～より）

ウ 受身（～に…られる）

働き Q23. 傍線部「於」のはたらきとして最も適切なものを、後のア～ウから選べ。

ニ 仕 於 フ  
一 齊 ニ

ア 場所・対象（～に・～で・～を）

イ 比較（～より）

ウ 受身（～に…られる）

働き Q24. 傍線部「於」のはたらきとして最も適切なものを、後のア～ウから選べ。

ニ 泰 山 ハ  
一 高 於 シ  
丘 ヨリモ

ア 場所・対象（～に・～で・～を）

イ 比較（～より）

ウ 受身（～に…られる）

働き Q25. 傍線部「於」のはたらきとして最も適切なものを、後のア～ウから選べ。

ニ 笑 於 ハ  
一 人 ニ

ア 場所・対象（～に・～で・～を）

イ 比較（～より）

ウ 受身（～に…られる）

置き字 Q26. 次の文の傍線部（置き字＝読まない字）の種類を、後のア～ウから選べ。

タ  
メ  
テ  
キ  
ヲ  
レ  
温  
故  
而  
知  
新。  
レ  
少  
キ  
ヲ

ア 接続の字（而。前の語に「て・して／ども」を添える）

イ 前置詞（於・于・乎。場所・比較・受身などを示す）

ウ 文末・句調の字（矣・焉・兮）

置き字 Q27. 次の文の傍線部（置き字＝読まない字）の種類を、後のア～ウから選べ。

ニ  
シ  
テ  
ル  
一  
可  
以  
為  
レ  
師  
矣。  
ト

ア 接続の字（而。前の語に「て・して／ども」を添える）

イ 前置詞（於・于・乎。場所・比較・受身などを示す）

ウ 文末・句調の字（矣・焉・兮）

働き Q28. 傍線部「於」のはたらきとして最も適切なものを、後のア～ウから選べ。

ニ  
ル  
一  
ニ  
隱  
於  
山。

ア 場所・対象（～に・～で・～を）

イ 比較（～より）

ウ 受身（～に…られる）

働き Q29. 傍線部「於」のはたらきとして最も適切なものを、後のア～ウから選べ。

命ハシ  
重シ  
於ヨリ  
泰モ  
山。  
ニ  
一

ア 場所・対象（～に・～で・～を）

イ 比較（～より）

ウ 受身（～に…られる）

働き Q30. 傍線部「於」のはたらきとして最も適切なものを、後のア～ウから選べ。

破ラル  
於ニ  
敵。  
ニ  
一

ア 場所・対象（～に・～で・～を）

イ 比較（～より）

ウ 受身（～に…られる）

書き下し Q31. 次の漢文の書き下し文として正しいものを、後のア～ウから選べ。

海ハシ  
深シ  
於ヨリ  
河。  
ニ  
一

ア 海は河に深し

イ 海は河よりも深し

ウ 河は海よりも深し

書き下し Q32. 次の漢文の書き下し文として正しいものを、後のア～ウから選べ。

ニ 問 於 師 。

ア 師より問ふ

イ 師に問ふ

ウ 師を問はる

書き下し Q33. 次の漢文の書き下し文として正しいものを、後のア～ウから選べ。

ニ 小人 治 於 人 。

ア 小人は人を治む

イ 小人は人に治めらる

ウ 小人は人より治む

働き Q34. 傍線部「於」のはたらきとして最も適切なものを、後のア～ウから選べ。

ニ 求 於 己 。

ア 場所・対象 (～に・～で・～を)

イ 比較 (～より)

ウ 受身 (～に…られる)

働き Q35. 傍線部「於」のはたらきとして最も適切なものを、後のア～ウから選べ。

ニ 輕<sup>シ</sup>  
於<sup>ヨリ</sup>  
一 鴻毛。

ア 場所・対象（～に・～で・～を）

イ 比較（～より）

ウ 受身（～に…られる）

働き Q36. 傍線部「於」のはたらきとして最も適切なものを、後のア～ウから選べ。

ニ 制<sup>セ</sup>  
於<sup>ラ</sup>  
一 人。<sup>ニ</sup>

ア 場所・対象（～に・～で・～を）

イ 比較（～より）

ウ 受身（～に…られる）

置き字 Q37. 次の文の傍線部（置き字=読まない字）の種類を、後のア～ウから選べ。

ニシテ  
敏<sup>レ</sup>  
而<sup>ム</sup>  
好<sup>ヲ</sup>  
学。

ア 接続の字（而。前の語に「て・して／ども」を添える）

イ 前置詞（於・于・乎。場所・比較・受身などを示す）

ウ 文末・句調の字（矣・焉・兮）

置き字 Q38. 次の文の傍線部（置き字＝読まない字）の種類を、後のア～ウから選べ。

三  
人  
行、  
必  
有  
我  
師  
焉。

ケバ

ズリ

ガ

ア 接続の字（而。前の語に「て・して／ども」を添える）

イ 前置詞（於・于・乎。場所・比較・受身などを示す）

ウ 文末・句調の字（矣・焉・兮）

読み方 Q39. 傍線部の置き字の扱いとして正しいものを、後のア～ウから選べ。

玉  
美  
於  
石。

ハシ

ヨリモ

ア 読まない（置き字。下の名詞の送り仮名で示す）

イ 「おいて」と必ず読む

ウ 「ああ」と詠嘆で読む

書き下し Q40. 次の漢文の書き下し文として正しいものを、後のア～ウから選べ。

ニ 金 堅 於 鉄 。

ア 金は鉄に堅し

イ 金は鉄よりも堅し

ウ 鉄は金よりも堅し

働き Q41. 傍線部「於」のはたらきとして最も適切なものを、後のア～ウから選べ。

ニ 告 於 君 。

ア 場所・対象（～に・～で・～を）

イ 比較（～より）

ウ 受身（～に…られる）

働き Q42. 傍線部「於」のはたらきとして最も適切なものを、後のア～ウから選べ。

ニ 貴 於 千 金 。

ア 場所・対象（～に・～で・～を）

イ 比較（～より）

ウ 受身（～に…られる）

働き Q43. 傍線部「於」のはたらきとして最も適切なものを、後のア～ウから選べ。

欺<sup>ニ</sup>於<sup>カル</sup>友<sup>ニ</sup>。

ア 場所・対象（～に・～で・～を）

イ 比較（～より）

ウ 受身（～に…られる）

書き下し Q44. 次の漢文の書き下し文として正しいものを、後のア～ウから選べ。

君子<sup>ニ</sup>立<sup>ハ</sup>於<sup>ツ</sup>朝<sup>ニ</sup>。

ア 君子は朝より立つ

イ 君子は朝に立つ

ウ 君子は朝に立たる

置き字 Q45. 次の文の傍線部（置き字＝読まない字）の種類を、後のア～ウから選べ。

良<sup>レ</sup>葉<sup>ハ</sup>苦<sup>シ</sup>口<sup>ニ</sup>而<sup>アリ</sup>利<sup>ニ</sup>於<sup>ニ</sup>病<sup>ニ</sup>。

ア 接続の字（而。前の語に「て・して／ども」を添える）

イ 前置詞（於・于・乎。場所・比較・受身などを示す）

ウ 文末・句調の字（矣・焉・兮）

働き Q46. 傍線部「於」のはたらきとして最も適切なものを、後のア～ウから選べ。

ニ 始<sup>マル</sup>  
於<sup>ニ</sup>  
一 日。

ア 場所・対象（～に・～で・～を）

イ 比較（～より）

ウ 受身（～に…られる）

書き下し Q47. 次の漢文の書き下し文として正しいものを、後のア～ウから選べ。

ニ 用<sup>キラル</sup>  
於<sup>ニ</sup>  
一 世。

ア 世を用ふ

イ 世に用ゐらる

ウ 世より用ふ

働き Q48. 傍線部「於」のはたらきとして最も適切なものを、後のア～ウから選べ。

ニ 重<sup>シ</sup>  
於<sup>ニ</sup>  
一 泰<sup>ヨリモ</sup>  
山。

ア 場所・対象（～に・～で・～を）

イ 比較（～より）

ウ 受身（～に…られる）

読み方 Q49. 傍線部の置き字の扱いとして正しいものを、後のア～ウから選べ。

学ビテ而不ズ厭ハ。

ア 読まない（置き字。前の語に「て・して」を添える）

イ 「なんぢ（お前）」と読む

ウ 「しかれども」と必ず声に出して読む

置き字 Q50. 次の文の傍線部（置き字＝読まない字）の種類を、後のア～ウから選べ。

智者ハ楽シ水ヲ兮。

ア 接続の字（而。前の語に「て・して／ども」を添える）

イ 前置詞（於・于・乎。場所・比較・受身などを示す）

ウ 文末・句調の字（矣・焉・兮）

現代語訳 Q51. 次の漢文の現代語訳として最も適切なものを、後のア～ウから選べ。

小人セラル役ニ於ニ物ニ。

ア つまらぬ人は物を使う

イ つまらぬ人は物より優れる

ウ つまらぬ人は物に使われる

現代語訳 Q52. 次の漢文の現代語訳として最も適切なものを、後のア～ウから選べ。

氷 寒 於 水。  
ハ シ ヨ リ モ  
ニ 一

ア 氷は水の中で寒い

イ 氷は水よりも冷たい

ウ 氷は水に冷やされる

書き下し Q53. 次の漢文の書き下し文として正しいものを、後のア～ウから選べ。

殺 於 敵。  
サ ル ニ  
ニ 一

ア 敵を殺す

イ 敵より殺す

ウ 敵に殺さる

現代語訳 Q54. 次の漢文の現代語訳として最も適切なものを、後のア～ウから選べ。

苛 政 猛 於 虎。  
ハ ナ リ ヨ リ モ  
ニ 一

ア むごい政治は虎のところで激しい

イ むごい政治は虎よりも恐ろしい

ウ むごい政治は虎に襲われる

書き下し Q55. 次の漢文の書き下し文として正しいものを、後のア～ウから選べ。

レ 学<sup>ビテ</sup> 而<sup>ズ</sup> 不<sup>ハ</sup> 思<sup>。</sup>

ア 学を思はず

イ 学ぶも思ふ

ウ 学びて思はず

現代語訳 Q56. 次の漢文の現代語訳として最も適切なものを、後のア～ウから選べ。

ニ 問<sup>フ</sup> 於<sup>。</sup> 賢<sup>ニ</sup> 者<sup>。</sup>

ア 賢者より問われる

イ 賢者に問う

ウ 賢者を問いつめる

書き下し Q57. 次の漢文の書き下し文として正しいものを、後のア～ウから選べ。

ニ 高<sup>シ</sup> 於<sup>。</sup> 山<sup>ヨリモ</sup>

ア 山に高し

イ 山を高くす

ウ 山より高し

現代語訳 Q58. 次の漢文の現代語訳として最も適切なものを、後のア～ウから選べ。

ニ セラル  
制於人。  
一 ニ

ア 人を支配する

イ 人に支配される

ウ 人より勝る

書き下し Q59. 次の漢文の書き下し文として正しいものを、後のア～ウから選べ。

ニ マル  
生於乱世。  
一 ニ

ア 乱世より生まる

イ 乱世を生む

ウ 乱世に生まる

現代語訳 Q60. 次の漢文の現代語訳として最も適切なものを、後のア～ウから選べ。

ニ シテ  
三十而立。  
一 ツ

ア 三十歳でひとり立ちする

イ 三十人が立ち上がる

ウ 三十年も立ち続ける

書き下し Q61. 次の漢文の書き下し文として正しいものを、後のア～ウから選べ。

ニ 笑<sup>ハル</sup>於<sup>ニ</sup>衆<sup>ニ</sup>。

ア 衆を笑ふ

イ 衆に笑はる

ウ 衆より笑ふ

現代語訳 Q62. 次の漢文の現代語訳として最も適切なものを、後のア～ウから選べ。

レ 和<sup>シテ</sup>而<sup>ズ</sup>不<sup>ゼ</sup>同。

ア 仲が悪く、同調する

イ 和を乱して争う

ウ 仲良くするが、なれ合わない

書き下し Q63. 次の漢文の書き下し文として正しいものを、後のア～ウから選べ。

ニ 重<sup>シ</sup>於<sup>ヨリ</sup>鼎<sup>モ</sup>。

ア 鼎よりも重し

イ 鼎に重し

ウ 鼎を重んず

現代語訳 Q64. 次の漢文の現代語訳として最も適切なものを、後のア～ウから選べ。

ニ 立<sup>ツ</sup>  
於<sup>ニ</sup>  
門<sup>ニ</sup>  
。

ア 門より立つ

イ 門に立つ

ウ 門に立たせられる

書き下し Q65. 次の漢文の書き下し文として正しいものを、後のア～ウから選べ。

ニ 破<sup>ラル</sup>  
於<sup>ニ</sup>  
楚<sup>ニ</sup>  
。

ア 楚を破る

イ 楚より破る

ウ 楚に破らる

現代語訳 Q66. 次の漢文の現代語訳として最も適切なものを、後のア～ウから選べ。

ニ 深<sup>シ</sup>  
於<sup>ニ</sup>  
海<sup>ニ</sup>  
。

ア 海よりも深い

イ 海の中で深い

ウ 海に沈む

書き下し Q67. 次の漢文の書き下し文として正しいものを、後のア～ウから選べ。

ニ 告 於 天。  
一

ア 天より告ぐ

イ 天に告ぐ

ウ 天を告ぐ

現代語訳 Q68. 次の漢文の現代語訳として最も適切なものを、後のア～ウから選べ。

ニ 用 於 国。  
一

ア 国を用いる

イ 国より優れる

ウ 国に用いられる

書き下し Q69. 次の漢文の書き下し文として正しいものを、後のア～ウから選べ。

ニ シテ 敏 而 好 学。  
レ ム ヲ

ア 敏にして学を好む

イ 敏を学に好む

ウ 学を敏みて好む

現代語訳 Q70. 次の漢文の現代語訳として最も適切なものを、後のア～ウから選べ。

ニ 貴<sup>シ</sup>於<sup>リ</sup>金<sup>ニ</sup>。  
一

ア 金の中で貴い

イ 金よりも貴い

ウ 金に飾られる

書き下し Q71. 次の漢文の書き下し文として正しいものを、後のア～ウから選べ。

ニ 隱<sup>ル</sup>於<sup>リ</sup>野<sup>ニ</sup>。  
一

ア 野より隠る

イ 野を隠す

ウ 野に隠る

現代語訳 Q72. 次の漢文の現代語訳として最も適切なものを、後のア～ウから選べ。

ニ 欺<sup>カル</sup>於<sup>リ</sup>人<sup>ニ</sup>。  
一

ア 人に欺かれる

イ 人を欺く

ウ 人より賢い

書き下し Q73. 次の漢文の書き下し文として正しいものを、後のア～ウから選べ。

ニ 猛ナリ於ヨリ火モ。  
一

ア 火に猛なり

イ 火よりも猛なり

ウ 火を猛む

現代語訳 Q74. 次の漢文の現代語訳として最も適切なものを、後のア～ウから選べ。

学ビテ而ニ時フ習ヲ之。  
レ

ア 学ぶ時間がない

イ 学ばずに過ごす

ウ 学んで、適切な時に復習する

書き下し Q75. 次の漢文の書き下し文として正しいものを、後のア～ウから選べ。

ニ 仕フ於ニ魏。  
一

ア 魏に仕ふ

イ 魏より仕ふ

ウ 魏を仕ふ

現代語訳 Q76. 次の漢文の現代語訳として最も適切なものを、後のア～ウから選べ。

レ 必有師焉。ズリ

ア 先生は必要ない

イ 必ず先生がいる

ウ 先生を必ず探せ

働き Q77. 傍線部「於」のはたらきとして最も適切なものを、後のア～ウから選べ。

ニ 厚於前。シヨリモ

ア 場所・対象（～に・～で・～を）

イ 比較（～より）

ウ 受身（～に…られる）

働き Q78. 傍線部「於」のはたらきとして最も適切なものを、後のア～ウから選べ。

ニ 養於親。ハルニ

ア 場所・対象（～に・～で・～を）

イ 比較（～より）

ウ 受身（～に…られる）

働き Q79. 傍線部「於」のはたらきとして最も適切なものを、後のア～ウから選べ。

ニ 戦 於 野。  
一

ア 場所・対象（～に・～で・～を）

イ 比較（～より）

ウ 受身（～に…られる）

読み方 Q80. 傍線部の置き字の扱いとして正しいものを、後のア～ウから選べ。

死 而 後 已。  
シテ ノチ ム

ア 読まない（置き字。前の語に「て・して」を添える）

イ 「なんぢ（お前）」と読む

ウ 「しかれども」と必ず声に出して読む

現代語訳 Q81. 次の漢文の現代語訳として最も適切なものを、後のア～ウから選べ。

霜 葉 紅 於 二 月 花。  
ニ ハナリ ヌリモ  
一

ア 霜の葉は二月の花の中で赤い

イ 霜の葉は二月の花に染められる

ウ 霜にあった葉は二月の花よりも赤い

書き下し Q82. 次の漢文の書き下し文として正しいものを、後のア～ウから選べ。

苛政ハナリ  
ニ  
於  
虎ヨリモ  
一  
猛なり。

ア 苛政は虎よりも猛なり

イ 苛政は虎に猛なり

ウ 虎は苛政よりも猛なり

置き字 Q83. 次の文の傍線部（置き字＝読まない字）の種類を、後のア～ウから選べ。

温タタ  
レ  
故メテ  
而キラ  
知少  
レ  
新キラ。

ア 接続の字（而。前の語に「て・して／ども」を添える）

イ 前置詞（於・于・乎。場所・比較・受身などを示す）

ウ 文末・句調の字（矣・焉・兮）

現代語訳 Q84. 次の漢文の現代語訳として最も適切なものを、後のア～ウから選べ。

君子ハシテ  
レ  
和  
而  
不ズ  
同ゼ。

ア 君子は争って同調する

イ 君子は協調するが、付和雷同しない

ウ 君子は同じものを好む

置き字 Q85. 次の文の傍線部（置き字＝読まない字）の種類を、後のア～ウから選べ。

三人行、  
必有我師焉。

ケバ

ズリ

ガ

ニ

ア 接続の字（而。前の語に「て・して／ども」を添える）

イ 前置詞（於・于・乎。場所・比較・受身などを示す）

ウ 文末・句調の字（矣・焉・兮）

現代語訳 Q86. 次の漢文の現代語訳として最も適切なものを、後のア～ウから選べ。

劳力者治於人。

タラル

ニ

ニ

一

ア 体を使う者は人を治める

イ 体を使う者は人より働く

ウ 体を使う者は人に治められる

置き字 Q87. 次の文の傍線部（置き字＝読まない字）の種類を、後のア～ウから選べ。

力<sup>ハ</sup>拔<sup>キ</sup>山<sup>ヲ</sup>兮<sup>ハ</sup>氣<sup>フ</sup>蓋<sup>ヲ</sup>世<sup>レ</sup>。

ア 接続の字（而。前の語に「て・して／ども」を添える）

イ 前置詞（於・于・乎。場所・比較・受身などを示す）

ウ 文末・句調の字（矣・焉・兮）

書き下し Q88. 次の漢文の書き下し文として正しいものを、後のア～ウから選べ。

君子<sup>ハ</sup>求<sup>ム</sup>諸<sup>ヲ</sup>己<sup>ニ</sup>、小人<sup>ハ</sup>求<sup>ム</sup>諸<sup>ヲ</sup>人<sup>ニ</sup>。

ア 君子は諸を己に求め、小人は諸を人に求む

イ 君子は己を求め、小人は人を求む

ウ 君子は人に求め、小人は己に求む

現代語訳 Q89. 次の漢文の現代語訳として最も適切なものを、後のア～ウから選べ。

ハ  
シテ  
ヲ  
シ  
ヨリモ  
一  
氷水為之而寒於水。

ア 氷は水の中で固まる

イ 氷は水がこれを作るが、水よりも冷たい

ウ 氷は水に冷やされる

置き字 Q90. 次の文の傍線部（置き字=読まない字）の種類を、後のア～ウから選べ。

シ  
テ  
ル  
ト  
二  
一  
可以為レ師矣。

ア 接続の字（而。前の語に「て・して／ども」を添える）

イ 前置詞（於・于・乎。場所・比較・受身などを示す）

ウ 文末・句調の字（矣・焉・兮）

働き Q91. 傍線部「於」のはたらきとして最も適切なものを、後のア～ウから選べ。

青  
青  
於  
藍。

ハ  
シ  
ヨ  
リ  
モ

二  
一

ア 場所・対象（～に・～で・～を）

イ 比較（～より）

ウ 受身（～に…られる）

書き下し Q92. 次の漢文の書き下し文として正しいものを、後のア～ウから選べ。

千  
万  
人  
雖、  
吾  
往  
矣。

ト  
モ  
カン

ア 千万人を雖も、吾往く

イ 吾は千万人に往かる

ウ 千万人と雖も、吾往かん

現代語訳 Q93. 次の漢文の現代語訳として最も適切なものを、後のア～ウから選べ。

良薬ハシニ  
レ苦口アリ  
ニ而利於  
一病ニ。

ア 良い薬は口に苦いが、病には効く

イ 良い薬は口に苦く、病を起こす

ウ 良い薬は病に苦しめられる

書き下し Q94. 次の漢文の書き下し文として正しいものを、後のア～ウから選べ。

己ノ  
レ所  
レ不  
レ欲、  
下勿  
ニ施  
一上於  
人ニ。

ア 己の欲する所を人に施せ

イ 己の欲せざる所、人に施す勿かれ

ウ 人の欲せざる所を己に施す勿かれ

現代語訳 Q95. 次の漢文の現代語訳として最も適切なものを、後のア～ウから選べ。

過チテ而ザルヲ不改メ、  
是謂過ヲフチト。

ア 過ちを改めれば過ちでない

イ 過ちは改められない

ウ 過ちて改めないこと、これを本当の過ちという

書き下し Q96. 次の漢文の書き下し文として正しいものを、後のア～ウから選べ。

学ビテ而レバ不思ハ則チ罔シ。

ア 学びて思はざれば則ち罔し

イ 学を思へば則ち罔し

ウ 思ひて学ばざれば則ち罔し

現代語訳 Q97. 次の漢文の現代語訳として最も適切なものを、後のア～ウから選べ。

千里行、  
始於足下。

ア 千里を足で測る

イ 千里の旅も足もとから始まる

ウ 千里の道で足を止める

置き字 Q98. 次の文の傍線部（置き字＝読まない字）の種類を、後のア～ウから選べ。

敏而好學、  
不恥下問。

ア 接続の字（而。前の語に「て・して／ども」を添える）

イ 前置詞（於・于・乎。場所・比較・受身などを示す）

ウ 文末・句調の字（矣・焉・兮）

現代語訳 Q99. 次の漢文の現代語訳として最も適切なものを、後のア～ウから選べ。

ニ  
一  
ニ  
一  
防民口、甚於防レ川。  
グハ  
ノ  
ヲ  
ダシ  
グ  
ヲ

ア 民の口で川を防ぐ

イ 川が民の口に流れ込む

ウ 民の口を防ぐのは、川を防ぐよりも難しい

書き下し Q100. 次の漢文の書き下し文として正しいものを、後のア～ウから選べ。

レ  
ニ  
一  
ニ  
一  
朝聞道、夕死可矣。  
ニカバ  
ヲ  
ベ  
ス  
ト  
モ  
ナ  
リ

ア 朝に道を聞かば、夕べに死すとも可なり

イ 朝に道を聞き、夕べに死す

ウ 朝より夕べまで道を聞く